

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

努力目標

- ◎主日礼拝を大切に守ろう。
- ◎信徒一人ひとり教会活動に参画しよう。
- ◎地域との交流促進。

聖語 あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を
尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。
(申6:5)

力ある生きたみ言葉

天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない (ルカ 21:33)

司祭 ミカエル 小南 晃

8月15日の終戦記念日にNHKテレビで「二人の贖罪～日本とアメリカ・憎しみを超えて」というドキュメンタリー番組がありました。内容は二人のキリスト教伝道者の話ですが、一人は真珠湾攻撃で「トラトラトラ」を打電した攻撃隊総指揮官、淵田美津雄氏です。1951年に洗礼を受け、アメリカに渡り、伝道者となったということです。そして彼が回心したのは、ある人物との出会いがきっかけでした。その人物とは元米陸軍の爆撃手だったジェイコブ・ディシェイザーという方で、真珠湾への復讐心に燃え、日本本土への初空襲を志願して名古屋を爆撃。しかし爆撃後、燃料切れで中国に不時着し、日本軍の捕虜となりました。しかし捕虜生活のなかで聖書に出会い、戦後キリスト教の宣教師となり、日本に戻って自分が爆撃した名古屋を拠点に全国で伝道活動を行いました。そのディシェイザー氏の書いた冊子「私は日本の捕虜だった」を淵田氏が偶然受け取ったことが、彼の回心のきっかけとなったとのことでした。

ともに最初は憎悪と復讐心に燃えていながら、み言葉との出会い

で変えられ、淵田氏はアメリカで、ディシェイザー氏は日本だと、互いにかって敵であった国で福音を宣べ伝えたという内容に深く感銘を覚えました。

み言葉の持つ力

そうした二人の伝道活動に心を動かされると同時に、そこまで人を変えることのできる「み言葉」の力に改めて驚きを覚えました。

二人が心を刺されたのは、奇しくも同じみ言葉であり、「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。(ルカ 23:34)」でした。言うまでもなく、イエスがご自分を十字架に釘で打ち付ける人々のために神に赦しを執り成された祈りです。

そして大切なのはそのみ言葉を心に深く受け留めたところです。まさに『種を蒔く人』のたとえそのものと言えます。道端や、石地、茨のなかではなく、良い土地、即ちみ言葉を聞いて悟る時には何十倍もの実を結んでいくことの実証と言えます。

砕かれた悔いし心

しかしどうしたらみ言葉をその

ように深く受け留めることが出来るのでしょうか。

二人とも憎しみと復讐心を抱きながらも、そこに苦しさ、救いのなさを感じていたのでしょうか。即ち、救いに対して飢え渴いていたということです。

み言葉が蒔かれて育つ良い土地とは、神の救いを待っている心と言えます。それは良い土地が砕かれ耕されているように、自らの罪に悔い砕かれている心と言えます。それはイエスが山上の説教で「心の貧しい人は幸い… (マタイ 5:3以下)」と教えているものでもあります。一方、「しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である… (ルカ 6:24以下)」とあるように自らの欠如を知らない時、み言葉への感受性も失われるのでしょうか。

心にみ言葉を保つ

もし今、心を励まし、また慰め、時に心刺されるみ言葉があるなら、それは喜ぶべきことです。しかし時としてみ言葉への感受性が乏しくなっていることもあるかも知れません。私たちはそれぞれに心を動かされた聖句や譬え話、またイエスのなさった奇跡などがあるのではないのでしょうか。もし最初の感動が失われていたとしても、それらのみ言葉を心に保ち続けていると、再び「主よ、確かにその通りです。アーメン」と告白できる時が来る筈です。

私たちがさらにみ言葉によって養われ、強められて参りますように共に祈り求めたいと思います。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
" 9時15分 教会学校
" 10時30分 聖餐式・説教
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
土 午前10時30分 教会掃除
(ご奉仕をお願いします)